

船舶事故等調査報告書

平成24年3月29日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2011横第187号	
事故等種類	座洲	
発生日時	平成23年8月2日 10時30分ごろ	
発生場所	京浜港横浜第1区瑞穂ふ頭物揚場東方沖 神奈川県横浜市所在の神奈川第5号灯浮標から真方位253° 280m 付近 (概位 北緯35° 28.1′ 東経139° 39.4′)	
事故等調査の経過	平成23年10月20日、本インシデントの調査を担当する主管調査官 (横浜事務所)を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	油タンカー たいせい、166トン	
船舶番号、船舶所有者等	133456、大成海運株式会社	
乗組員等に関する情報	船長、六級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	なし	
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか2人が乗り組み、京浜港横浜第1区の瑞穂ふ頭物揚場（以下「瑞穂ふ頭」という。）において貨物船にA重油を給油した後、同船を離れて左回頭中、平成23年8月2日10時30分ごろ瑞穂ふ頭東方沖の浅瀬に座洲した。</p> <p>本船は、潮待ちし、15時00分ごろ自力で脱出して京浜港川崎第1区夜光係船場に着岸した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南南西、風速 約5m/s、視界 良好</p> <p>海象：波高 約0.2m、潮汐 下げ潮の中央期、潮高 約0.7m</p>	
その他の事項	<p>本船の給油終了時の喫水は、船首約0.65m、中央約0.90m、船尾約1.55mであった。</p> <p>本インシデント発生場所の水深は、約1.0mであった。</p> <p>船長は、瑞穂ふ頭沖に浅瀬があることは知っていたが、具体的な水深や位置を知らなかった。</p> <p>本船は、海図（W-66）を備えていた。</p> <p>船長は、約3年間、船長として本船に乗船し、瑞穂ふ頭沖を年に4～5回航行していた。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、京浜港横浜第1区の瑞穂ふ頭沖で左旋回中、船長が同ふ頭沖の浅瀬の状況を知らなかったことから、同浅瀬に座洲したものと考えられる。</p>
原因	<p>本インシデントは、本船が、京浜港横浜第1区の瑞穂ふ頭沖で左旋回中、船長が同ふ頭沖の浅瀬の状況を知らなかったため、同浅瀬に座洲したことにより発生したものと考えられる。</p>	

参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 航行する可能性のある場所については、事前に水路調査を行い、浅瀬の水深や位置等の状況を把握しておくこと。</li></ul>
----	---